

冬の水虫 2024.12



◎水虫（白癬）は、カビの一種である白癬菌が皮膚に感染して起こる病気です。白癬菌は皮膚の角質層や毛髪に含まれるケラチンを栄養源として増殖します。水虫は主に足趾の間の温かい湿った環境で増殖しかゆみなどの症状を引き起こしますが、無症状のこともあります。

◎冬季には白癬菌の増殖が止まり症状が落ち着く傾向にあります。この時期水虫が治ったと勘違いして何もしないで放置していると白癬菌の生息域は確実に拡大し同じ角質から構成される爪の中にも菌が入り込みます。

◎爪水虫は初期には自覚症状がなく気づきにくいのですが、放置すると、多くは爪が白や黄色に濁ったり、爪が厚くなり、ぼろぼろと欠けるようになり、徐々に根元の方に症状が広がっていきます。爪の下の角質の増殖を伴うため、しだいに爪は厚く肥厚し濁って見えるようになります。拇趾の爪が侵され肥厚してくると靴下が履きにくくなったり、靴を履くと痛みが出たり、爪が割れて細菌感染を起こすといった不具合を生じてきます。拇趾爪は歩行に際しても体重を支えバランスを保つために重要な役目を持っており爪の変形は歩行障害の原因となります。

◎水虫を放置しておくると余病のある人では命にかかわることもあります。水虫に侵されて硬くなった皮ふは亀裂が起これ細菌が侵入し^{ほうかしきえん}蜂窩織炎をきたすことがあります。糖尿病や下肢動脈閉そく症ではそれが原因で脚切断のようなことになりかねません。

◎水虫の治療は必ず検査で白癬菌がいることが確認されてから始めます。同じような症状で水虫でないこともあるからです。塗り薬は自覚症状がある部分だけでなく、両足の足趾の間から足裏全体に最低1カ月毎日塗り続けることが大切です。冬季には白癬菌の増殖が鈍るので治療のチャンスです。市販薬の中には皮膚炎を引き起こす場合もあるので注意が必用です。

◎爪に入った白癬菌を塗り薬で完全に消し去るのは困難です。爪水虫の治療薬は一般的には飲み薬です。3か月から6か月服用します。副作用で服用困難な場合はやむおえず塗り薬を使いますが菌を消し去るのは困難です。肥厚した爪はグラインダーで薄くして治療します。

◎金山病院では白癬菌の検出、肥厚した爪の処置などを行っているのでご相談ください。

下呂市立金山病院顧問 古田智彦